

(様式 1)

## 令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	佐藤 順一

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>2・3 学年の経年変化を見て、全国平均との差から成果が上がった教科は以下のとおりです。</p> <p>3 学年社会 (知識・技能、思考・判断・表現) 3 学年数学 (知識・技能、思考・判断・表現) 3 学年英語 (知識・技能、思考・判断・表現)</p> <p>いずれも全国平均を上回ることはできなかったが、差が縮まっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・国語、社会では、どの学年でも自分の考えを文章で書くことができない生徒が多い。</li><li>・数学においては、全学年で関数分野に課題がある。</li><li>・英語は英文を読んで概要をつかむことに課題がある。練習不足である。</li><li>・理科は 3 学年で電気の分野が課題である。基礎知識が定着していない。また、化学変化については全学年で低く、実験の方法や意味についての理解に課題がある。</li><li>・学校全体として、活用することに苦手を感じている生徒が多い。</li><li>・記述問題に対して、無回答となる生徒が多いので、日々の授業で記述に対する回答の練習を行う。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「学校で学んだことは将来、社会で役に立つと思う」の質問に対する肯定的回答が、全学年で全国平均より高い。</li><li>・一ヶ月あたりの読書冊数調査において、不読率が全国平均より低い。朝読書が定着している。</li><li>・自己肯定感が高い生徒が、どの学年も多い。</li></ul>	<p>全国平均を下回る項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・予習や復習をしている。</li><li>・学校の授業以外での学習習慣の定着</li><li>・家庭学習時間</li></ul> <p>家庭学習習慣と学力向上は大きく関係することなので、「何を、どのようにするか」を授業時間中に教えていく必要がある。また、家庭にも協力を仰ぎ、学校と連携して学力向上へ取り組んでいく必要がある。</p>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・授業に集中して取り組む生徒が多い。</li><li>・ICT 機器の使い方に長けている生徒が多く、ICT 機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる生徒が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、教科だけでなく学年ごとに組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習補充教室を充実させる。</li><li>・前時の振り返り、目的の明確化、授業の振り返り等を意識した、吾嬬二中プロシージャを徹底し、全教科で基礎基本の定着を図る。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 基礎・基本の定着を図り、活用能力を高める授業の実践【授業改善】

学力向上委員会を組織し、月に一回以上開催し、目標達成へ計画的に取り組む。

- ①学習のねらいを明確にした授業の導入、学習の振り返りを意識したまとめ・アウトプットの徹底。
  - ・吾嬭二中プロシージャを再確認し、共通理解のもと個に応じた丁寧な指導を心掛け、基礎基本の定着を図る。
    - ア：前回、何を学んだか（振り返り）  
教師の発問、小テスト、宿題の確認等
    - イ：今日、何を学ぶのか（目的の明確化）  
めあて（目標）の提示、教師の授業の狙いに沿った発問
    - ウ：今日、何を学んだか（振り返り）  
ペアによる振り返り、振り返りカード、小テスト等
  - ・放課後学習を充実させたり、家庭学習課題を出したりすること、定期的な復習テストを行うことで、短期記憶を長期記憶にして定着させる。
  - ・主体的に学習に取り組む生徒の育成に向け、探求活動や体験的な学習を各教科で取り入れる。
- ②区学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果の分析及び学力向上プランの作成
  - ・過去の問題に取り組み、弱点を把握させ、粘り強くそれを克服するような授業を実践する。
  - ・全教員が学力向上プランに基づいた授業実践及び検証を行い、振り返り期間を利用して生徒への個別の学習支援を行う。
- ③数学・英語（習熟度別少人数指導）の効果的な実施
  - ・各コースの生徒数も考慮しながら、学習事項を定着させるための繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。
  - ・特に発展コースでは、発展的な問題に多く取り組ませることで活用の力を高めていく。
- ④ICT機器の活用
  - ・授業でiPad等を用いて画像・動画、ロイロノートやミライシードなどを目的に応じて活用し理解を深めさせる。

### (2) 学習機会の拡大【D・E層の生徒の基礎学力の定着】

- ①質問教室や補習教室の実施（下位層の生徒を指名するとともに、希望者も対象とする。）
  - ・夏休みに補充教室を実施する。
  - ・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習教室「吾嬭二塾」を実施する。
  - ・すみだSSTを活用して、国・社・数・理・英の学習補充教室を実施する。
  - ・3年生の希望者対象の実力アップ講座を通年で毎週実施する。
  - ・補充教室や吾嬭二塾への参加者の選定と増加

## 3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・全教科の「知識・技能」の観点下定着させ、全国平均を上回るようにする。
- ・すべての教科でD・E層の生徒の割合を、2年生は30%以下、3年生は40%以下にするにする。